

平成26年5月17日

長与町図書館友の会「自然観察会」

ニュースレター

NO. 4

平成26年 第4回植物観察会報告

>>>>>山川 続

(長与町図書館友の会「自然観察会」代表)

1. 開催日時：平成26年5月11日（日） 9時30分～14時00分

天候：晴れ

2. 集合場所：長与駅前ロータリー

3. 観察場所：諫早市多良見町野川内・松ノ頭峠、
琴ノ尾岳山頂周辺

4. 観察テーマ：フタリシズカを観察する。

5. おもな観察内容



(1) はじめに

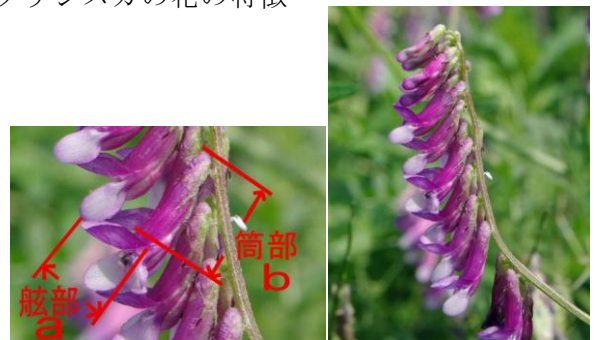
今日は、初参加者1名を含めて11名の参加だった。昨日は下見を兼ねて、琴ノ尾岳の植物を（写真1）フタリシズカ（琴ノ尾岳山頂）調査した。この時、フタリシズカの花が咲いていることを確認した。また、あまり見られないウンゼンカンアオイの花を見つけ、参加者で観察することにした。下見終了後、長与町斉藤郷に移動して水田周辺の植物を観察した。昨年と同じ放置水田にカワヂシャの群落があった。しばらく歩くと、空き地にアツミゲシが生えているのを発見した。ここを含めて2ヶ所で確認した。最初に見つけた場所では、すでに数十個の果実をつけていた。アツミゲシは、日本ではあへん法で栽培が原則禁止されている植物である。栽培すれば犯罪になるが、繁殖力が強く、きれいな花をつけるため放置されている場合がほとんどである。数年前、福岡市の幼稚園の畑で、数百本のアツミゲシが咲いているのが見つかったこともある。もし見つけたら、最寄りの保健所か交番に連絡するよう参加者に説明した。もちろん、昨日見つけたアツミゲシについては、長与交番に連絡した。

今日の目当ては、昨年も観察したフタリシズカの花である。昨年は花が咲く前に観察した上に、葉がすでに展開していたのでキビヒトリシズカと誤同定した。その後、花を確認して、フタリシズカと修正した。今年は、花の開花と同時期の日程になったので、ヒトリシズカやキビヒトリシズカと違うフタリシズカの花の特徴を観察できて良かった。

(2) 観察した主な花

- ①ナヨクサフジ（マメ科 ソラマメ属）

花の筒部(b)は、旗弁の舷部(a)（左右にそりかえった部分）のほぼ2倍の長さがある。クサフジは、同じ長さか短い。



(写真2)ナヨクサフジ(松ノ頭峠)

②シラユキゲシ（ケシ科 エオメコン属）

道路脇に大群落があるので、園芸種の逸脱だろう。原産地は中国東部、英名はスノーピープーである。花弁は4枚で雄しべが黄色で多数出るので、キンポウゲ科の花にも似ている。茎を切った時に赤みをおびた汁が出るので、血水草（中国名）ともよばれる。

ケシ科エオメコン属の耐寒性多年草で、1属1種の山野草である。根と茎でふえ、四方に広がる。根茎を干したものは生薬で黄水芋といい、消炎、解毒などの薬効がある。全草を干したものは生薬で黄水草といい、皮膚病の薬とされる。



（写真3）シラユキゲシ（松ノ頭峠）

③オオニワゼキショウ（アヤメ科 ニワゼキショウ属）

芝地などでニワゼキショウをたくさん見かける。花弁の色は、紫色が多いが白色もある。しかし、よく観察すると、写真4の右のような何となく違う印象があるものがある。これは、オオニワゼキショウとよばれ、内花被片（花弁）と外花被片（萼）の幅が違うので区別がつく。両方とも朝咲いて夕方には受粉を終えしぼんでしまう一日花である。その代わり新しい花が毎日次々と咲く。ニワゼキショウの外花被片と内花被片は、よく見ると紫の縦筋の本数が違っている。また、オオニワゼキショウの内花被片は尖り気味・反り気味である。内花被片と外花被片の開き具合のバランスが微妙にずれていることがある。



（写真4）ニワゼキショウ(左)
とオオニワゼキショウ

このように、細かく観察すると、普段気づかない違いがわかる。

ニワゼキショウ(庭石菖)	オオニワゼキショウ(大庭石菖)
<ul style="list-style-type: none"> ・内花被片と外花被片の幅は同じ。 ・外花被片と内花被片は、よく見ると紫の縦筋の本数が違っている。 ・花托はずん胴。 ・果実は3、4mm程度 	<ul style="list-style-type: none"> ・内花被片と外花被片の幅が違う。 内花被片は尖り気味・反り気味。 ・背が高くなるが、花は小さめ。 ・花の中心部にある濃紫色の部分が薄い。 ・花托はキュッとくびれる。 ・果実は5、6mm程度。明らかに大きい。

④ツクシカンアオイ（ウマノスズクサ科 カンアオイ属）

カンアオイの仲間には似たものが多い。花弁のように見える部分は、萼片である。萼片が3角状円形で開き、縁は強くうねっていないのでツクシカンアオイと思う。詳しくは、花を細かく観察する必要がある。

分布の上で、かなり限定的な種が多く、長崎県内ではツクシアオイかウンゼンカンアオイかの分類ができれば大丈夫のようである。



（写真5）ツクシカンアオイ(左・琴ノ尾岳)と
ウンゼンカンアオイ(雲仙白雲の池)の花


ウンゼンカンアオイ	3裂した萼の縁が波打ったようになる。
ツクシアオイ	3裂した萼は開出し基部には不規則な隆起が多い。

⑤フタリシズカ（センリョウ科 チャラン属）

琴ノ尾岳山頂駐車場横の林の中にたくさん生えている。なぜ、ここで大量発生しているのか理由はわからない。ここ以外では、雲仙で観察した。能の謡曲「二人静」の中で、静御前の霊とその霊に憑かれた菜摘女が舞を舞う姿にこの花を見立てて、フタリシズカの名がついたとされ、1700年代に書かれた「和漢三才図絵」にも記載されている。



(写真6)フタリシズカの花序

ヒトリシズカ	<ul style="list-style-type: none"> ・葉が開く前に長さ3cmほどの穂状花序 ・花糸は白い<u>ブラシ状</u>になる。 ・葉には<u>光沢があり</u>、十字対生する葉が見える。 <p>(写真7)ヒトリシズカ（平尾台20130429）</p>	
フタリシズカ	<ul style="list-style-type: none"> ・葉が開いた後、穂状花序 <u>2本</u>出すが、1～5本と一定しない。 ・花糸は白い<u>球状</u>になる。 ・葉には<u>光沢がなく</u>、十字対生の葉がはっきり離れてつく。 	
キビヒトリシズカ	<ul style="list-style-type: none"> ・葉が開いた後、ヒトリシズカより長い穂状花序 <u>1本</u>出す ・葉には光沢がない。・花糸は白い<u>ブラシ状</u>になる。 	

⑥オオフユイチゴ（バラ科 キイチゴ属）

山頂広場から扇塚公園へ下る途中の遊歩道脇にフユイチゴより大きく、立ち上がって生えていた。ハウロクイチゴはもっと大型なので、下見の時は確信が持てなかったが、みんなで観察して確認したところ、オオフユイチゴだった。



(写真8)オオフユイチゴ

フユイチゴ	<ul style="list-style-type: none"> ・葉がやや薄く、裂片の先が普通とがり、<u>葉裏の脈上に刺がない</u>。 ・茎には<u>伏した毛</u>が密生して、トゲはあまりない。 ・葉の鋸歯の先端は小さな芒になる。 	
オオフユイチゴ	<ul style="list-style-type: none"> ・茎、葉、萼などに黄褐色の毛が多く、葉がやや大きくて厚みがあり、裂片の先が丸く、<u>葉裏の脈上に刺がある</u>。 ・茎には黄褐色の<u>開出毛</u>と細かい刺がある。 	
ハウロクイチゴ	<ul style="list-style-type: none"> ・太い茎は弓なりに横に伸び、葉は厚く裏面は綿毛が密生して白色 ・茎が立ち上がり、花期が春で、果実が熟すのは春～夏。 ・フユイチゴに似ているが、葉も花も果実も大きい。 	

⑦ミツバツチグリ（バラ科 キジムシロ属）

山頂駐車場から広場へ上がる途中の林の中に、たくさん生えていた。黄色い5弁花をつけ、副萼片は萼片よりやや小さい。黄緑色の葉は3小葉からなり、表面に光沢ない。似た花に、ヘビイチゴ(副萼片は萼片と同長)、ヤブヘビイチゴ(葉は濃い緑色、副萼片が花弁より長い)がある。根茎が太く、部分的に塊状になった部分を食用にできることから「土栗」の名がある。



(写真9)ミツバツチグリ

⑧エゾノギシギシ（タデ科 ギシギシ属）

山頂広場のベンチ周辺に生えていた。ギシギシにしては大きく、ギシギシはすでに花が咲いているので何だろうと思った。観察会后、調べると、エゾノギシギシのようだ。葉の裏面脈上に短毛があるのを確認した。最終的には、果実の翼にあるとげ状の歯、1個しかない粒体を確認したい。

（写真10）エゾノギシギシ



⑨サクラハトサカフシ（虫えいの名前）

サクラフシアブラムシ（写真11は有翅胎生虫）によって、サクラの葉に形成される虫えい（写真12）である。2本の側脈の間が葉表へ盛り上がって折れ曲がり袋状に膨らむ。芽の基部で卵で越冬し、（写真11）羽化して羽がある有翅胎生虫になり、2次寄主のヨモギへ移住して卵ではなく子を生む。そしてサクラへもどり、越冬芽の基部などに産卵する。



（写真12）

※長与町内で見つけたアツミゲシ（麻薬成分を含む）

アツミゲシは、ケシ科ケシ属の1年生植物（越年草）である。麻薬の原料となるモルヒネを含有しているため、



日本では「あへん法」で栽培が原則禁止されている種に指定されている。ナガミヒナゲシがあるので、“アツミ”は厚い実だと思っていたら、1964年に愛知県渥美半島の沿岸部において日本への帰化が発見されたことに由来するそうだ。

葉柄がなく、葉の付け根は茎を抱いているのが特徴である。

○主な参考・引用資料

- ・北海道の虫えい(虫こぶ)図鑑：<http://www.galls.coo.net/35-bara/32-sakura/index.html>
- ・三河の野草：フユイチゴ、オオフユイチゴ
- ・フタリシズカとヒトリシズカ：<http://www.geocities.jp/mc7045/sub170.htm>
- ・みんなの花図鑑：シラユキゲシ(スノーポピー)
- ・岡山理科大学：植物雑学辞典
- ・植物図鑑・撮れたてドットコム：クサフジの仲間
- ・多摩の緑爺の「多摩丘陵の植物と里山の研究室」：ミツバツチグリ
- ・Updating details & Diary：この花なんだ【ニワゼキショウ/オオニワゼキショウ】

長与町図書館友の会「自然観察会」 ニュースレター NO. 4

発行日：2014年5月17日

編集：山川 続 メール：yamagawa1957@yahoo.co.jp

<http://www005.upp.so-net.ne.jp/yamagawa/syokubutsu-kansatsukai-annai.html>

発行者：長与町図書館友の会「自然観察会」
